

令和5年9月8日
(公財) 日本海事広報協会

報道関係各位

豊橋市の小学生を対象に三河港と海運をテーマに授業を実施 ～川崎汽船(株)の船長がゲスト講師として授業～

(公財) 日本海事広報協会と川崎汽船(株)は、2023年9月7日(木)に、豊橋市内全小学校の5年生約3,000名を対象に三河港や海運、船員をテーマとしたオンライン出前授業を実施しました。これは(公財) 日本海事広報協会が海事団体と協力して展開している「小学校における副教材等による海事教育の推進」事業の一環で行われたものです。

両者は豊橋市において、例年共同で出前授業を実施し、海事教育の浸透をはかっており、今年度はオンライン形式による船長の出前授業を実施しました。

この日の出前授業は、川崎汽船(株)の山田隆裕船長が講師として授業をおこないました。豊橋市教育会館より各教室へ授業が配信され、「船の種類」や「船員の仕事」、「三河港」についてなど、児童たちは「船」による海上輸送を通して世界各国とつながる三河港の姿や、そこで働く船員の仕事を学びました。

授業を受けた児童からは、「乗船中に大変だった経験はどのようなことか」「船員さんは1年間で何カ月間を乗船しているのか」「自動車専用船には自動車以外に新幹線やヘリコプターは積めるのか」などの質問が飛び交い、同社の中村奏平一等航海士と金成旭二等航海士が夫々回答した。

講師の山田船長は「児童にいかに海運について興味を持たせ、理解を深めてもらうかを試行錯誤しました。本日の授業を受けて船員という職業に魅力を感じてくれたら有難いです。」と語ってくれました。

授業を受けた牟呂小学校の天野教諭は、「児童たちは海事産業について、社会科の授業で習うものの、実際は縁遠く、知る機会がほとんどない。船や港のこと、海の上で働く方々の苦労や経験談を聞いて、児童たちにとって新鮮な学びができました。また、市内の5年生全員が一斉に海事産業について学べる貴重な経験となりました」と述べました。

当協会では、引き続き、豊橋市において、川崎汽船(株)をはじめとした海事関係者とともに、海事産業の見学会や出前授業等の海事教育を推進していきます。

【小学校における副教材等による海事教育の推進事業】 協力団体(50音順)
(一社) 日本港運協会、(公社) 日本港湾協会、(一社) 日本船主協会、
(一社) 日本倉庫協会、(一社) 日本造船工業会、日本内航海運組合総連合会



オンライン出前授業をおこなう
山田隆裕 船長（中央）

質問に回答する中村奏平一等航海士（右）と
金成旭二等航海士（左）

市内全校へ授業映像が配信されている様子



積極的に船長に質問をする児童

この件に関する問い合わせ先 （公財）日本海事広報協会 事業部 鈴木悠樹
TEL : 03-3552-5033/FAX : 03-3553-6580
E-mail : y.suzuki@kaijipr.or.jp